

## 1. 病棟の具体的な目標と評価

## 1) 安全で質の高い看護を提供する

- (1) 退院支援に必要な情報を早期から聴取、共有することで、患者に合わせた指導や退院計画を立案し実践できた。
- (2) 倫理的配慮をもって看護を実践できるよう倫理、接遇の勉強会を開催した。行った看護を倫理の視点で振り返る機会を設けることでスタッフの言葉使いや患者対応に行動変化がみられた。

## 2) 病院経営に参画する

- (1) 重症度、医療・看護必要度は月平均 25.4%であったが、評価ができる患者についてはほぼ漏れなく評価できており、評価ができる患者の割合を大きく落とすことはなかった。
- (2) 月平均の入院患者数は 140 人と多かったが、平均在院日数が 7.6 日と短く、週末の患者数の減少もあって、病床利用率は 77.0%と目標達成には至らなかった。
- (3) SPD 紛失率は月平均 0.3%と減少した。紛失率低値を維持することで病院経営に参画できた。

## 3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

- (1) インシデント件数は前年度より減少したが、昨年同様、薬剤のインシデント件数が多く、確認不足で起こったインシデントの割合も高かった。確実な確認行動の実践が不十分であった。
- (2) ICT リンクナースを中心に標準予防策の勉強会や実践の確認を行なった。確実な標準予防策の実践により病棟内での感染拡大はなかった。針刺し事故は 0 件であった。

## 4) 専門職として能力開発に努める

- (1) 実地指導者、プリセプターが中心となり新人教育プログラムに沿った育成が病棟全体で行えた。1 年間で習得してもらいたい看護技術や業務手順については概ね実践できるようになっている。
- (2) 糖尿病看護認定看護師のフットケア指導、自主的な研修参加、学会主催の心電図検定の資格取得に励めた。資格を取得することでスタッフの自信につながり、後輩や学生の指導にも活かした。

## 5) 看護の先輩として学生指導に携わる

- (1) 学生、教員、実習担当看護師で目標を共有し、確認しながらスムーズに実習を進めることができ、実習目標も概ね達成できた。

## 6) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する

超過勤務時間は 8.64 時間/月/人であり、メリハリをつけて仕事を行なうことで超過勤務時間の削減につながった。またリフレッシュ休暇以外に 4 日間の連続した休みを各自取得することができ、スタッフのモチベーション維持につながった。

## 2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収容可能病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患者数(人)	平均在院日数(日)	病床利用率(%)	病床稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	心臓血管外科、循環器内科、代謝内科	140	155.3	36.9	7.6	77.0	87.6

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	84.7	7	81.3	4

表2 令和元年度 患者(家族)への個人・集団指導実施件数(人)

フットケア外来		糖尿病教室(回)	心臓リハビリ(件/年)
入院患者(人)	外来患者(人)	161	6289
2	23		新規 785
自己注射指導(件)	血糖自己測定指導(件)	持続皮下インスリン注入療法導入(件)	持続血糖モニター(件)
153	126	2	28

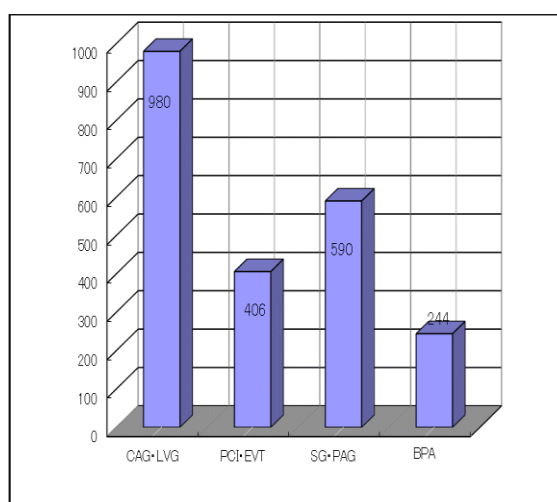
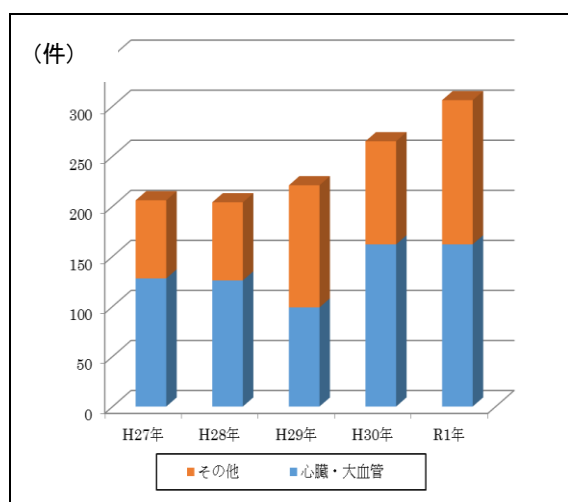


図1 令和元年度心臓血管外科手術件数の推移

図2 令和元年度心臓カテーテル検査・治療別件数

## 3. 看護体制

表3 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
42	PNS®	4 : 3

#### 4. 看護統計

##### 1) 重症度、医療・看護必要度

表4 令和元年度 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	23.1	22.7	24.1	23.0	28.0	29.9	24.2	25.0	27.9	23.9	25.6	27.4	25.4

##### 5. 看護研究会・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
服薬を自己管理している患者の服薬状況	緒方志帆	看護研究発表会	院内	2020年2月8日